

128段のらせん階段の先に
感動の景色に出会えます!!



津軽海峡に沈む夕日



太平洋の眺め

津軽海峡と太平洋の波がぶつかるのが
見えるときも……



海に映る灯台



迫力のある33mの高さ



尻屋崎灯台

アクセス

鉄道・バス等

・JR大湊線下北駅下車

下北駅～むつバスターミナル(下北交通バス尻屋崎線)
～尻屋崎口下車(約40分)、徒歩約30分

※ 5月1日から10月30日までの間、上記バスは尻屋崎
(灯台の目の前) まで運行されます

自動車

・八戸自動車道八戸IC～国道45号、338号、
県道6号経由 約2時間30分

参観時間

・4月下旬～4月30日 9時00分～15時00分

・5月1日～11月上旬 9時00分～16時00分

※尻屋崎灯台は季節参観のため、11月上旬～4月

下旬まではのぼることができません。

悪天候の際はのぼれない場合も

ございますのでご了承ください。

日々の参観状況等につきましては、

当会HPをご覧ください。

<https://www.tokokai.org/tourlight/tourlight16/>

参観寄付金

大人 300円(中学生以上)

小学生以下及び障がい者(介助者1人まで)

の方はいたしません

灯光会 尻屋崎支所

〒035-0111

青森県下北郡東通村大字尻屋字尻屋崎1-1

TEL: 0175-47-2889 (FAX兼)

しりやさきとうだい

尻屋崎灯台

SHIRIYA SAKI

Lighthouse

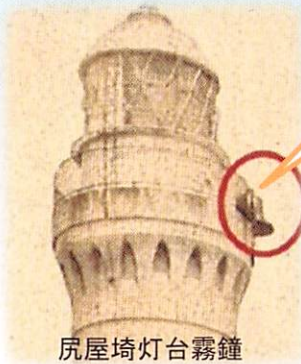


のぼれる灯台16の一つ

レンガ造りでは日本一高い

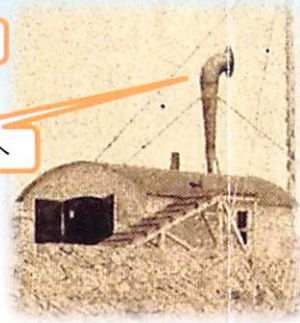


～わが国で初めて設置された霧鐘～



初代霧鐘

霧鐘から霧笛へ



尻屋埼灯台霧鐘

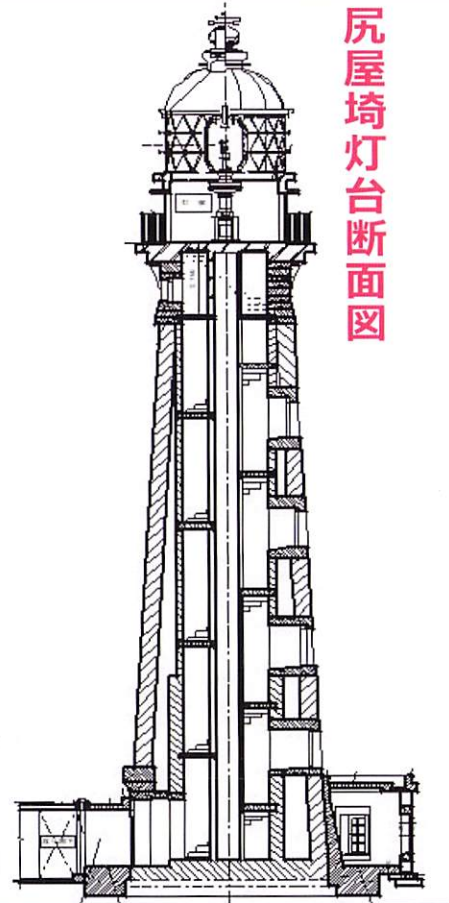


初代の霧鐘
現在は、犬吠埼灯台構内に展示

レンガ二重構造

灯台内部で
レンガ二重構造
がみれます！

レンガ二重構造
拡大



尻屋埼灯台断面図

尻屋埼灯台の歴史

明治9(1876)年10月20日 初点。

下北半島の最北東端に位置する尻屋埼灯台は、平成30年6月1日に16基目の「のぼれる灯台」になりました。尻屋埼灯台の名称は、建設当初は「尻矢埼」でしたが、昭和38年6月1日海上保安庁と国土地理院の統一に関する連絡協議会で決定し現在の「尻屋埼」に変更。

明治16年10月24日午後8時30分、みぞれの降る夜に灯台のガラスを突き破り隕石が落下した記録が、当時の官報に割れたガラスの図とともに詳細が掲載されています。隕石の落下記録がある灯台は、この尻屋埼灯台だけです。そして忘れてならないのは、怪火(あやしび)の記録です。戦後、戦災で消灯している灯台が、点灯している現象を当時の灯台職員全員が実際に目にしています。数々の歴史が伝えられており、明治政府がイギリスから招へいた灯台技師ブラントン最後の設計灯台であり日本のレンガ造りの灯台で一番高い灯台です。

【この灯台の概要】

位置:北緯 41度25分49秒 東経 141度27分44秒

光り方:単せん白光 10秒に1回発光(沖合の船舶から灯台を見た場合、回転するレンズから放たれる光を10秒ごとに見ることができます)

光の強さ:530,000カンデラ(「カンデラ」とは、光源の強さを表す単位です)

光の届く距離:18.5海里(約34キロメートルです。1海里は1,852メートルです)

高さ:灯台の基礎部から灯台の頂部まで、約33メートル

レンズ:第二等2面フレネル式せん光レンズ(複数のプリズムを組み合わせることにより軽量化されたレンズで、「フレネル」とは、フランス人開発者のフレネル氏の名前です)